

正誤表
～ 規格本文 ～

No.	ページ 番号	規格番号	誤	正	備考
第 4 章 容器					
1	I-4-79	表 PVC-3130-1	表 PVC-3130-1 継手効率の値 溶接規格 N-3100(1) <u>a</u> 項の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格(2) <u>a</u> 項の規定に適合するもの	表 PVC-3130-1 継手効率の値 溶接規格 N-3100(1) <u>1</u> 項の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格(2) <u>1</u> 項の規定に適合するもの	2012年版 以降
2	I-4-146	表 PVD-3110-1	表 PVD-3110-1 継手効率の値 溶接規格 N-4100(1) <u>a</u> 項の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格(2) <u>a</u> 項の規定に適合するもの	表 PVD-3110-1 継手効率の値 溶接規格 N-4100(1) <u>1</u> 項の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格(2) <u>1</u> 項の規定に適合するもの	2012年版 以降
3	I-4-194	表 PVE-3240-1	表 PVE-3240-1 継手効率の値 溶接規格 N-2100(1) <u>a</u> 項の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格(2) <u>a</u> 項の規定に適合するもの	表 PVE-3240-1 継手効率の値 溶接規格 N-2100(1) <u>1</u> 項の規定に準じて放射線透過試験を行い、同規格(2) <u>1</u> 項の規定に適合するもの	2012年版 以降

正誤表
～ 規格解説 ～

No.	ページ 番号	規格番号	誤	正	備考
目次					
1	I-解説 目次-3	—	解説 PVA-3100 応力分類・・・I-解説 4-1	解説 PVA-5000 応力分類・・・I-解説 4-1	2011年追補版以降
第4章 容器					
1	I-解説 4-1	解説 PVA-5000	（解説 PVA-3100） 応力分類 PVA-3100は応力分類の例を示したものであるが、各部位における応力分類の考え方を解説表 PVA-3100-1に示す。	（解説 PVA-5000） 応力分類 PVA-5000は応力分類の例を示したものであるが、各部位における応力分類の考え方を解説表 PVA-5000-1に示す。	2011年追補版以降
2	I-解説 4-1	解説表 PVA-5000-1 (1/4)	解説表 PVA-3100-1 応力の分類 (1/4)	解説表 PVA-5000-1 応力の分類 (1/4)	2011年追補版以降
3	I-解説 4-2	解説表 PVA-5000-1 (2/4)	解説表 PVA-3100-1 応力の分類 (2/4)	解説表 PVA-5000-1 応力の分類 (2/4)	2011年追補版以降
4	I-解説 4-3	解説表 PVA-5000-1 (3/4)	解説表 PVA-3100-1 応力の分類 (3/4)	解説表 PVA-5000-1 応力の分類 (3/4)	2011年追補版以降
5	I-解説 4-4	解説表 PVA-5000-1 (4/4)	解説表 PVA-3100-1 応力の分類 (4/4)	解説表 PVA-5000-1 応力の分類 (4/4)	2011年追補版以降

No.	ページ 番号	規格番号	誤	正	備考
6	I-解説 4-4	解説 PVA-5000 (1)	円筒形または球形の胴に内圧がかかると、不連続部には、解説図PVA- <u>3100</u> -1のような応力分布が生ずる。	円筒形または球形の胴に内圧がかかると、不連続部には、解説図PVA- <u>5000</u> -1のような応力分布が生ずる。	2011年追補版以降
7	I-解説 4-4	解説 PVA-5000 (2)	・・・たとえば、球殻と円筒殻の接続部には、解説図 PVA- <u>3100</u> -2のような内力 H 、モーメント M が生ずる。ここで球殻と円筒殻の内圧による半径方向変位の差違 δ は連続である必要があることから、解説図 PVA- <u>3100</u> -3のような応力が生ずる。ここで、太線は膜応力、細線は表面応力を表わし、破線の部分が曲げ応力に相当する。	・・・たとえば、球殻と円筒殻の接続部には、解説図PVA- <u>5000</u> -2のような内力 H 、モーメント M が生ずる。ここで球殻と円筒殻の内圧による半径方向変位の差違 δ は連続である必要があることから、解説図PVA- <u>5000</u> -3のような応力が生ずる。ここで、太線は膜応力、細線は表面応力を表わし、破線の部分が曲げ応力に相当する。	2011年追補版以降
8	I-解説 4-4	解説図 PVA-5000-1	解説図 PVA-<u>3100</u>-1 形状不連続部に作用する応力分布	解説図 PVA-<u>5000</u>-1 形状不連続部に作用する応力分布	2011年追補版以降
9	I-解説 4-4	解説図 PVA-5000-2	解説図 PVA-<u>3100</u>-2 形状不連続部に作用する応力(その1)	解説図 PVA-<u>5000</u>-2 形状不連続部に作用する応力(その1)	2011年追補版以降
10	I-解説 4-5	解説図 PVA-5000-3	解説図 PVA-<u>3100</u>-3 形状不連続部に作用する応力(その2)	解説図 PVA-<u>5000</u>-3 形状不連続部に作用する応力(その2)	2011年追補版以降
11	I-解説 4-5	解説 PVA-5000 (3)	矩形断面を持つ梁について、弾完全塑性体となる場合のモーメント (M_C) と表面の降伏が始まる場合のモーメント (M_O) との比をとると 1.5 となる。 (解説図 PVA- <u>3100</u> -4)	矩形断面を持つ梁について、弾完全塑性体となる場合のモーメント (M_C) と表面の降伏が始まる場合のモーメント (M_O) との比をとると 1.5 となる。 (解説図 PVA- <u>5000</u> -4)	2011年追補版以降

No.	ページ 番号	規格番号	誤	正	備考
12	I-解説 4-5	解説図 PVA-5000-4	解説図 PVA- <u>3100</u> -4 弾完全塑性体と表面降伏が生じる場合モーメント	解説図 PVA- <u>5000</u> -4 弾完全塑性体と表面降伏が生じる場合モーメント	2011 年追補版以降
13	I-解説 4-6	解説 PVA-5000 (6)b. 板厚方向に分布する熱応力は、解説図 PVA- <u>3100</u> -5 のように分類して応力評価を行う。 板厚方向に分布する熱応力は、解説図 PVA- <u>5000</u> -5 のように分類して応力評価を行う。	2011 年追補版以降
14	I-解説 4-6	解説図 PVA-5000-5	解説図 PVA- <u>3100</u> -5 胴に生じる熱応力	解説図 PVA- <u>5000</u> -5 胴に生じる熱応力	2011 年追補版以降
15	I-解説 4-7	解説 PVA-5000 (7)	ボルトで締めつけられるフランジのように、リングを回転させるような機械的荷重が加わる場合（解説図 PVA- <u>3100</u> -6）には、回転中心から遠ざかるに従って大きくなるような周方向の応力が生ずる。この応力は外力とのつりあいによって生ずるが、回転中心が降伏するまで崩壊に至らない。よって P_b に分類する。	ボルトで締めつけられるフランジのように、リングを回転させるような機械的荷重が加わる場合（解説図 PVA- <u>5000</u> -6）には、回転中心から遠ざかるに従って大きくなるような周方向の応力が生ずる。この応力は外力とのつりあいによって生ずるが、回転中心が降伏するまで崩壊に至らない。よって P_b に分類する。	2011 年追補版以降
16	I-解説 4-7	解説図 PVA-5000-6	解説図 PVA- <u>3100</u> -6 フランジ部応力分布	解説図 PVA- <u>5000</u> -6 フランジ部応力分布	2011 年追補版以降
17	I-解説 4-8	解説 PVA-5000 (8) また、リング部と接続する胴の平均温度の違いによって生ずる不連続力 H およびモーメント M によって生ずる応力は Q に分類する。（解説図 PVA- <u>3100</u> -7 参照） また、リング部と接続する胴の平均温度の違いによって生ずる不連続力 H およびモーメント M によって生ずる応力は Q に分類する。（解説図 PVA- <u>5000</u> -7 参照）	2011 年追補版以降

No.	ページ 番号	規格番号	誤	正	備考
18	I-解説 4-8	解説図 PVA-5000-7	解説図 PVA- <u>3100</u> -7 リング部熱応力	解説図 PVA- <u>5000</u> -7 リング部熱応力	2011 年追 補版以降
19	I-解説 4-9	解説 PVA-5000 (9)	<p style="text-align: center;">.</p> <p>応力解析による応力は解説図 PVA-<u>3100</u>-8に示すように分布しているが、内圧または機械的荷重による応力の最小リガメント幅および板厚に関する平均値（すなわち解説図 PVA-<u>3100</u>-8の斜線部分の平均値）は P_m、内外表面での最小リガメント幅に関する平均値は P_b に分類する。</p>	<p style="text-align: center;">.</p> <p>応力解析による応力は解説図 PVA-<u>5000</u>-8に示すように分布しているが、内圧または機械的荷重による応力の最小リガメント幅および板厚に関する平均値（すなわち解説図 PVA-<u>5000</u>-8の斜線部分の平均値）は P_m、内外表面での最小リガメント幅に関する平均値は P_b に分類する。</p>	2011 年追 補版以降
20	I-解説 4-9	解説図 PVA-5000-8	解説図 PVA- <u>3100</u> -8 リガメント部の応力分布	解説図 PVA- <u>5000</u> -8 リガメント部の応力分布	2011 年追 補版以降
第 5 章 管					
1	I-解説 5-12	解説 PPB-3520 (2)f.	PPB-3520 の管台またはティーに接続される分岐管の断面係数は、式（解説 PPB-1.11）により計算した値とする。（解説図 PPB-3520- <u>6</u> 参照）	PPB-3520 の管台またはティーに接続される分岐管の断面係数は、式（解説 PPB-1.11）により計算した値とする。（解説図 PPB-3520- <u>7</u> 参照）	2009 年追 補版以降
2	I-解説 5-12	解説図 PPB-3520-7	解説図 PPB-3520- <u>6</u> 分岐部の断面係数の定義	解説図 PPB-3520- <u>7</u> 分岐部の断面係数の定義	2009 年追 補版以降